

B—110 奈良市内小、中学生の身体計測値に関する一考察

池坊短大 有本 翠
○安井 和子
阿野 遍
奈良女大 水梨さわ子

1. 私共は、体格向上にともない、衣服寸法の基準を、設定する目的で、男女小・中学校の学童・生徒の身体計測を行ない、各年齢における計測値をえたので、この資料により、学童生徒の発育過程について、2, 3の考察を試みた。

2. 資料は1966年奈良市立飛鳥小学校、男女学童 660名および、奈良市立春日中学校男女生徒 330名を、衣服寸法に関する24項目（女子は25）について計測したものである。今回は、(1)1965年度文部省調査の④全国平均、⑤奈良県平均との身長、体重、胸囲の3項目についての比較。(2)各学年における生まれ月別の発育過程の比較。(3)家庭の職業を、給料生活者とその他とに分けて比較して見た。(4)各学年の男女の周径、長径の、発育過程の比較等について考察した。

3. (1)については計測年度の差が1年あるが、④⑤いずれも優位（奈良市の今回の計測値が）であり、(2)については、生まれ月が、5, 6月がおおむね優位、8～12月は平均値に近く、2, 3月は劣っているのが認められた。(3)については給料生活者よりその他の職業の方が優位を示した。(4)については1～5学年は長周径共、おおむね男子が優位であるが、腰囲は1～6学年通じて、女子優位であった。しかし、6学年においては各項目共女子優位が認められた。中学校では、長径はおおむね男子優位であるが、周径については、女子の方が優位になりつつあり、性差が表われていることを示している。